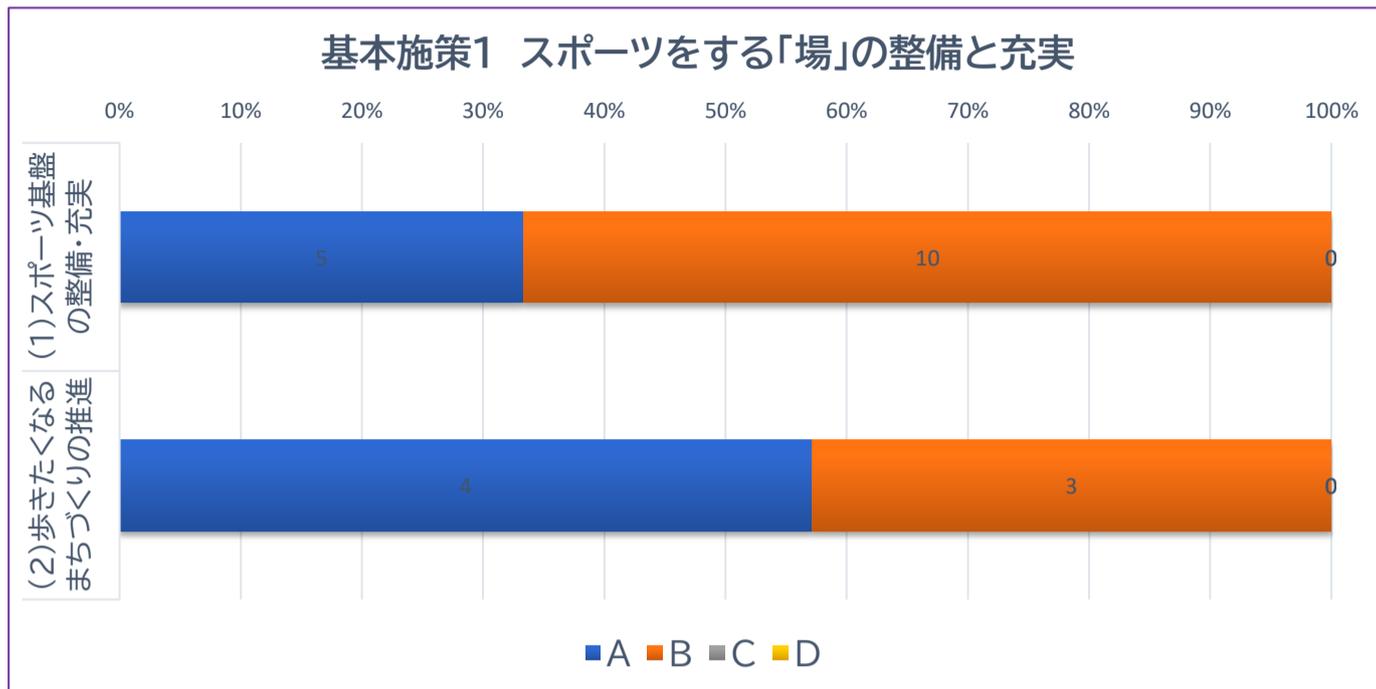
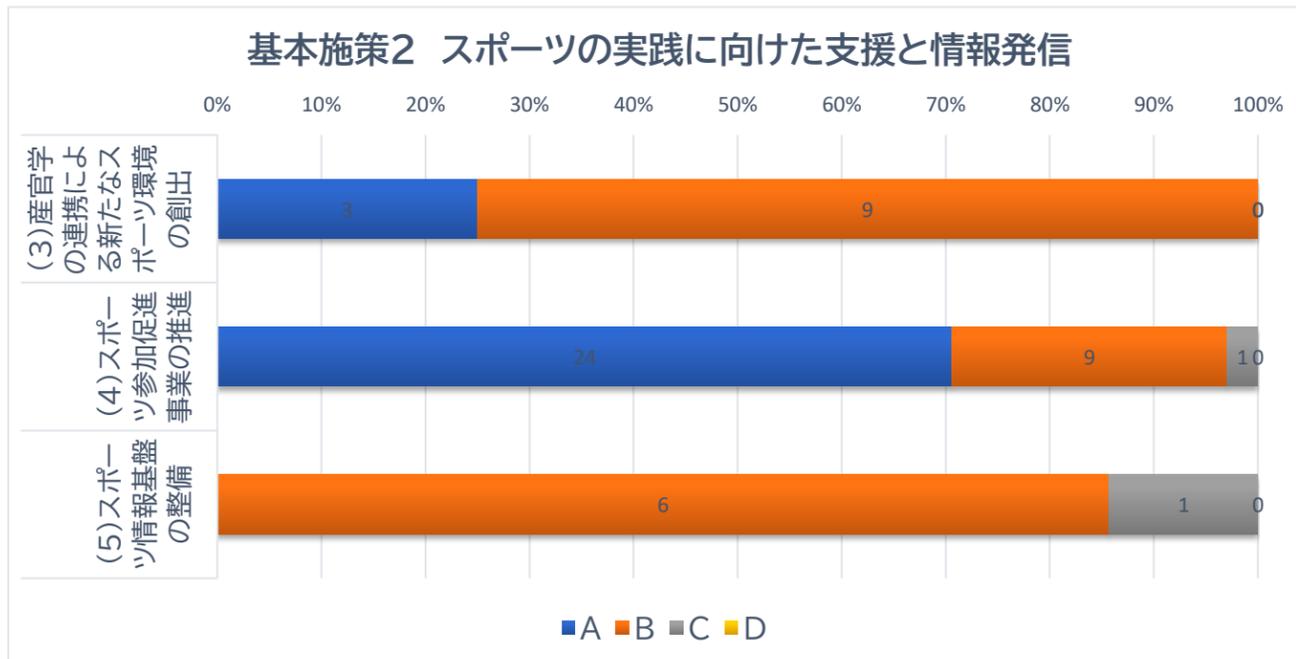


＜基本施策1＞ スポーツをする「場」の整備と充実



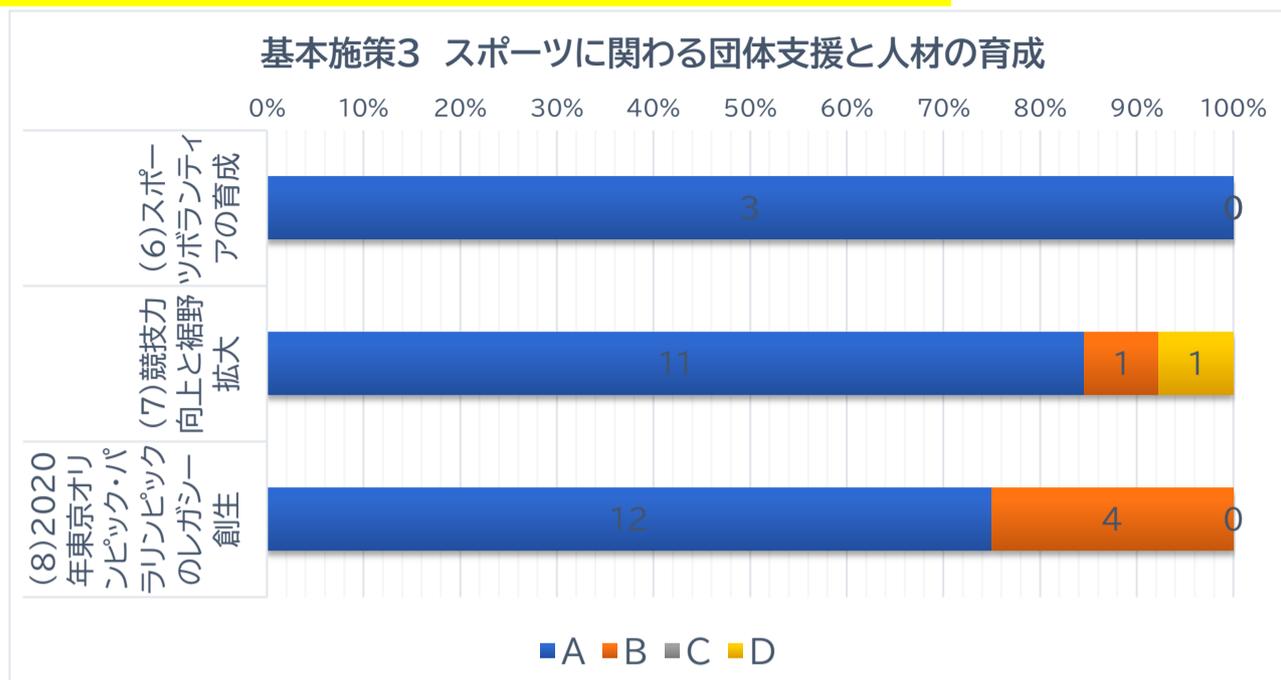
	(施策名称)	(総評)
～具体的施策～	(1) スポーツ基盤の整備・充実 評価:【B】 ～評価方法～ 例:(1)の場合 ・「a-1」～「d-1」の15事業 ・各担当課の評価を点数化 A → 3点 × 5事業 B → 2点 × 10事業 C → 1点 D → 0点 計: 35ポイント ・平均値を割り出し、 $35 \div 15 \text{事業} = 2.33$ ・小数点以下四捨五入した結果が、 「3」= A / 「2」= B ⇒ (1) = 「B」	・評価は「A」「B」の2つに分かれた。 ・推進事業 a (公共体育施設の整備・充実) について …「南平体育館の建替え(a-1)」を着実に進められたほか、「指定管理者による施設の有効活用(a-4)」や「体育施設の利用時間拡大(a-10)」についても順調に展開することができた。一方で、「屋外体育施設へのナイター設置(a-9)」などは、利用者や近隣住民など関係者との調整面で課題を残した。 ・推進事業 b～d について …推進事業 b (学校体育施設の利活用) については、実践女子学園グラウンドの市民開放を実現できた。 ただ、推進事業 c (公共体育施設等のバリアフリー化) および推進事業 d (公共施設のスポーツによる利用促進) で掲げたバリアフリー化等の施設整備については、予算不足もあり、建替えを行う南平体育館を除いて難航する結果となった。
	(2) 歩きたくなるまちづくりの推進 評価:【A】	・評価は「A」「B」の2つに分かれた。 ・推進事業 a (歩きたくなるまちづくりの推進) について …「歩きたくなるまちづくり計画(a-1)」や「歩きやすい道路整備(a-3)」については、期間中に取組を完了させることができた。ウォーキング関連事業(a-2・a-5・a-6)については、マップの見直しや配布を進めた一方で、それを活用したイベントの実施や効果の検証までは行き届いていないという結果もみられた。
～総合評価～	評価:【B】	・計画の目的のうち「誰もが利用しやすいスポーツ環境の整備」「健康意識の啓発」について、さまざまな面で寄与することができた半面、施設のバリアフリー化など、課題も顕在化する結果となった。 ・個別施策で「A」評価となったもののなかに、事業が完了し、役割を終えたとして「廃止」の方向性が示されるものもあった。 ・次期計画に繋げていくために、結果として評価の低くなった施策を中止に改善を図るだけでなく、次の計画期間内に実施すべき内容について、新たに検討していく必要がある。

<基本施策2> スポーツの実践に向けた支援と情報発信



	(施策名称)	(総評)
～具体的施策～	(3)産官学の連携による 新たなスポーツ環境の創出 評価:【B】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は「A」「B」の2つに分かれた。</li> <li>・推進事業 c (東京ヴェルディ1969等との連携) ではホームタウンデーへの参加に加え、サッカー教室を実施するなど、さまざまな形で継続的に進めることができた。</li> <li>・その他、推進事業 a (企業との連携) の一部として、日野自動車 (日野レッドドルフィンズ)との連携など新たな活動も展開できた一方、推進事業 a のなかでも民間スポーツクラブとの連携や、推進事業 b (大学との連携) の面では、課題を残した。</li> </ul>
	(4)スポーツ参加促進事業の推進 評価:【A】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は「A」が大半を占めた。</li> <li>・推進事業 a (多様なアプローチによるスポーツに対する意識の啓発) や、推進事業 f (障害者スポーツの普及と推進) では、計画期間中、オリンピック・パラリンピック関連の補助金を活用して実施した事業があった。これらのイベントについては、効果等を検証し、オリンピック・パラリンピック終了後の実施方法について、検討していく必要がある。</li> <li>・また、推進事業 b (スポーツ推進委員による多世代へ向けたスポーツ事業の展開)や、推進事業 g (高齢者が気軽に楽しむことができるスポーツ活動の推進)などでは、総じて高い評価となった。</li> <li>・一方で、推進事業 c (スポーツ実施率の向上にむけた積極的アプローチ) や、推進事業 e (子どもたちのスポーツ活動の支援と充実) の一部について、改善の余地を残した。</li> </ul>
	(5)スポーツ情報基盤の整備 評価:【B】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は「B」「C」に分かれた。</li> <li>・いずれの施策についても、情報の円滑な提供にむけ、計画期間内に実現できた内容と比較して多くの課題が指摘される結果となった。</li> </ul>
～総合評価～	評価:【B】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基盤整備の面では課題を残したものの、基本施策全体を通じて、計画の目的である「ヘルスケア・ウェルネスコミュニティによるスポーツ環境の創出」や「充実したスポーツ活動の推進」への貢献度は高く評価できる。</li> <li>・計画期間中は、オリンピック・パラリンピックの追い風に下支えされ、各種事業を活発に展開できたが、今後のスポーツを考えるにあたっては、新型コロナウイルス感染症をはじめとして様相が一変している。</li> <li>・次期計画においてこの柱をイメージしていくにあたっては、その前提の下で何ができるか、という点から検討していく必要がある。</li> </ul>

<基本施策3> スポーツに関わる団体支援と人材の育成



	(施策名称)	(総評)
～具体的施策～	(6)スポーツボランティアの育成 評価:【A】	・広報ひのや市ホームページでの周知のみならず、市内および近隣の大学や関係団体でのチラシの配布等の効果により、参加者数を増やし、多くの活動に参加してもらうことができた。
	(7)競技力向上と裾野拡大 評価:【A】	・さまざまな種目の事業について、多くの方に参加いただき、展開することができた。 ・推進事業 b (トップクラス選手の競技力強化支援) については、補助金を活用して実施していた事業であったため、財源次第で見直しを検討する。
	(8)2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシー創生 評価:【A】	・(基本施策2同様)ウクライナとの交流をはじめ、オリンピック・パラリンピックを契機として実施できた事業が多くある一方で、コロナ禍で中止や再検討を余儀なくされた事業もある。 ・「障害者とのスポーツ交流の推進(a-7)」など、できることを継続的に実施していき、オリンピック・パラリンピック終了後の事業展開に繋げていく必要がある。
～総合評価～	評価:【A】	・各施策ともに、オリンピック・パラリンピックの開催機運が高まるなかで、活発に事業を展開することができた。 ・(基本施策2同様)コロナ禍の影響で、ストップがかかった事業が多くある。 ・次期計画においては、現状の取り組みのレベルアップを図ることに加え、新たな取り組みの検討も並行して進めていく必要がある。

<基本施策4>

		(総評)
～総合評価～	評価:【B】	・施策の進捗確認と計画目標の管理については、新たな形での連携・推進体制を整備するまでには至らなかったものの、アンケート調査の実施等により着実に進行管理の確認作業を進めた。